

研究交流報告書

令和 元年 11 月 20 日

上越教育大学長 殿

所属・職名 芸術・体育教育学系 准教授
氏 名 尾崎 祐司

	期 間	旅行区間及び滞在地	研究機関
研究交流日程	令和 元年 11 月 4 日 ～ 令和 元年 11 月 16 日	ドイツ ブランデンブルク州 コトブス	ブランデンブルク工科大学
研究交流テーマ	ドイツの音楽科の教員養成における演奏技能の向上と指導方法（教授法）について 日本の音楽教育における伝統音楽の特徴と楽器について		
研究交流の概要 及び 研究交流の成果	<p>研究交流の概要</p> <p>ジモーネ・シュレーダー教授と本学との大学間協定について、斉藤雅俊氏（コトブス市歌劇場管弦楽団コントラバス奏者：上越市出身）を通じ、協定締結に向けた協議を進める確認をし、研究機関の授業（声楽とピアノのレッスン、模擬授業、幼稚園実習）を参観した。12 日（火）には筆者が「日本の音楽教育における伝統音楽の特徴と楽器について」、雅楽の龍笛、箏篋、そして長唄の小鼓の演奏方法の解説を交え、およそ 45 分間講演を行った。</p> <p>研究交流の成果</p> <p>13 日（水）に大学本部の国際交流担当のミヒャエル・マンネル氏、シュレーダー教授、筆者、そして通訳も兼ねた斉藤氏との 4 人で協定締結に向けて協議した。その結果、協定締結を結ぶ約束を取り付けた。具体的な協定文書については、先方から 3 案提案するとの提案を頂いた。現在 3 案についての返事待ちである。</p>		
研究交流の成果の還元に関する具体的な方策（今後の計画）	協定締結が実現した場合は在学中の学生に制度について周知する。また、今回撮影してきた声楽とピアノのレッスンの動画を学生に見せるなど、ドイツで学ぶ具体像について啓発する。		
研究交流中の感想又は希望等	BTU の学生の技能レベルが本学の学生と大きな差異がないように感じた。卒業後の進路がプロの演奏家ではなく、学校の教員や音楽教室の指導者を目指しているなど本学の学生と境遇が似ていた。そのため、お互いの学生交流のニーズがあると感じた。		

（注）記入スペースが狭い場合は、縦に広げて作成してください。